

1 総括

（1）教育目標

校訓を「豊かな人間性をもち、心身を鍛え自己を磨き上げる子」とし、生きる力を支える〔確かな学力〕〔豊かな心〕〔健やかな体〕の調和のとれた児童の育成を図る。

（2）本年度の重点努力目標

ア 生き生きと学び合う子どもの育成

- ・ 子どものさらなる可能性を信じ「やればできる」と勇気づけ、何事にも挑戦できる子どもを育てる。
- ・ 「つなぐ つながる 東っ子」を合い言葉に、異学年交流の場や地域の人と関わる機会を通して多くを学び、自分を見つめ、考えを深め高めていく子どもを育てる。

イ 開かれた学校づくりの推進

- ・ 家庭・地域との連携を大切にし、安全・安心で、開かれた信頼される学校づくりに努める。
- ・ 地域の方々と関わり、地域へ出かけて、地域を知り、地域に根ざした学校づくりに努める。

ウ お互いが信頼し合える教職員集団と働き方の見直し

- ・ ほんのちょっとした「気配り・心配り」を心がけ、職員同士の意思疎通を大切にし、「チーム力」を生かした教職員集団を創る。
- ・ 一人一人のよさを認め・努力をほめ・不足を励まし・個性やよさを伸ばす指導をする。
- ・ タブレットの有効活用により、文書等の共有化を進め、会議の精選や会議時間の厳守、時間の短縮化に努める。
- ・ 業務の棚卸しと見える化を推し進め、協力体制を整え、処理の円滑化と業務の効率化を図る。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和5年11月28日～12月4日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照（Google Formにて回答）
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
・児童 273名／全282名 ・保護者 154名／全282名 ・教職員 17名／全17名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童、保護者、教職員の総括的考察】

（1）児童の評価

- ・ 全体を通して、肯定的な意見が多く、学校生活において満足と感じている児童が多い。
- ・ 「私は、学校で楽しく生活できています」や「学校での学習や生活を通して自分が成長していると思います」に対する肯定的回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）が92%を超えている。しかし、「私は毎日「おはよう」や「さようなら」の挨拶を先生や友達にしています」や「私は近所の人や知っている地域の人に、挨拶をしています」では、肯定的な回答がやや少なかった。今後、周りの人との関わりをより多くもつような取組が必要であると考えます。
- ・ 「私は学校のきまりや約束をきちんと守っています」では、肯定的回答が92%だが、「悪口をいったり、人を傷つけたりしないよう、言葉づかいに気をつけています」では、肯定的回答がやや少なかった。今後は、教職員のきめ細やかな観察により、いじめ等に対する早期発見・早期対応・早期解決につながるよう進めていきたいと考える。
- ・ 「授業中、先生はわかりやすく教えてくれます」「私は授業中、先生の話や友達の話をしっかり聞いています」では、肯定的回答が96%を超えていた。教職員とともに学習に前向きに取り組んでいることがうかがえる。

（2）保護者の評価

- ・ 本年度から紙面のアンケートではなく、「Google Form」でのアンケートを実施したため、回答数

が少なかつた。もっと、周知活動を行う必要がある。

- ・ 質問に対して肯定的な意見が多く、子どもが学校生活に満足していると感じている保護者が多いことがうかがえる。
- ・ 「学校は、学校のきまりや約束を守る態度を育てようとしている」「先生は、わかりやすい授業や基礎基本を大切にした学力の向上に努めている」では、95%以上で非常に高かつた。学校や教職員の取組に対して保護者が理解していると考えられる。
- ・ 「子どもは家できめた手伝いをしている」「子どもは先生や地域の人に進んで挨拶している」に対して肯定的回答がやや低く、学校でも家族や地域の一員である意識を育てる必要がある。

(3) 教職員の評価

- ・ どの質問に対しても8割以上の質問で80%以上の肯定的回答になつた。
- ・ 「私は、子どもたちの良好な人間関係を作り出すことができるよう、配慮や言葉かけをしている」「私は、子どもの言葉や態度に注意してひとりひとりの状況を把握し、積極的に子どもと関わり、児童の実態をよりの確につかむように心がけている」の質問に対して肯定的回答が高い一方、「私は、家庭での生活習慣について、折に触れ話題にし児童に振り返らせている」「私は、家庭での学習習慣を学級の話題にするなど、家庭学習の児童の意識付けを図っている」の肯定的な回答は低かつた。学校内の指導は積極的に実践しているが、学校外(家庭・地域)の指導については苦慮していることがうかがえる。

5 成果と課題

〈成果〉

- (1) 児童・保護者・教職員アンケートの結果から、各項目の肯定的評価の数値が高く、学校教育活動が児童にとって充実したものであり、自己肯定感の高い児童が増えている。また、感染症への対応も含めて、教職員の学習指導や生徒指導への対応について保護者からの理解も得られていると考えられ、教職員もそれを実感していると判断できる。今後も、学校と家庭・地域との連携を積極的に行い、安全・安心で開かれた信頼される学校づくりに努めていく。
- (2) 「わかりやすい授業」をめざし、児童個々の考えをつかみ、思考を揺さぶる言葉かけや児童相互の対話をつなぐ働きかけを工夫しながら、授業展開に取り組んできた。ICT機器(タブレット端末)を活用した授業の工夫や改善に努めた結果であると考え。今後さらに、子どもたちが学ぶことに興味・関心を持ち、見通しをもってねばり強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて進めていく。

〈課題〉

- (1) 学習面について、授業では聞く力が育ちつつあるものの、児童も保護者も教職員も、読書や家庭学習などの自主的な取組について、改善する必要があると感じている。
- (2) 悪口やいじめを見逃さず、一人一人を大切にしたい指導を心がけ、互いに認め合う教育活動を進めたことにより、子どもたちが安心して学校での生活を送ることにつながっていると考えるが、表面化していない問題を抱えている場合も考えられる。

6 改善策

- (1) 「自ら考え、共に学び合う学級・授業」を推進するため、教員の力量向上に向けて、研修の充実を図る。校内での研究授業の計画を立て、教員同士が互いの授業から学び合うことのできる環境を整える。また、自主的に学習することのよさを児童や保護者に発信していく。
- (2) 気になる児童についての情報交換を常に行い、気軽に相談できる雰囲気を作り、職員間の連絡を密にするとともに、学校生活アンケート・Q-Uアンケートの結果や教育相談を通して、児童の些細なサインを見逃さないように努める。また、児童理解のための優れた外部講師を招き、校内研修を実施する。さらに、日頃から保護者に対して丁寧に細やかに連絡を行うなど、学校と家庭との連携を密にして教育活動を進めていき、子どもたちにとって「楽しい学校」をめざして学校づくりを進めていきたいと考える。